



VOL 21

2009年3月号

発行2009年2月25日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

アマチュアの光通信

遠山元信

前回近藤さんが AGC レポートに投稿した「山岳通信の原点」で烽火の話は面白そうですが、煙を出すので消防・警察等に届ける必要があるのではないのでしょうか。そこで届出が必要なく道具を選べば距離も伸びる光通信は如何でしょうか。

パイロットなどのレスキューキットの中に金属の反射板が含まれています。現在のように無線機が小型化される前は、小さな反射板を利用して墜落したパイロットは捜索機や捜索船に存在を知らせるのに利用したようです。

その光通信を過去一度偶然の機会にテストをしたことがあり、さらに思わぬ光を眼にしたことがありますので報告しておきます。

平成 2-3 年頃、埼玉県にある大霧山へ出かけ、桶川市に住む J110KO という無線仲間と交信、眼下に見える関東平野のどこが桶川市になるのか判らず、隣のビルの屋上から鏡で太陽光線を反射させチカチカとやってくれませ

んかと依頼、その結果ピカピカ見えたのです。その距離 38 キロぐらいでした。使用した鏡は幅 10 センチくらい 長さ 30 センチくらいの一般的な鏡を使用、見る側は肉眼だけでした。

同様な例として同じく平成 2-3 年頃の冬、埼玉県堂平山系から北アルプスが見える可能性を求めて日の出前から白石峠傍の剣が峰山頂に待機、日の出

とともに奥秩父の山々の上に八ヶ岳の峰々が照らされ出した時、赤岳山頂の一角が突然徐々に光り出し、時間の経過とともに光が萎んでいくのと遭遇しました。山頂小屋の窓ガラスが何かに日の出の光が反射していたのではないかと判断しました。その距離約 72 キロです。このように冬の空気が澄んでいる時であれば、一般の鏡でも見通し距離のチカチカは可能な筈です。

そこで鏡を持った方が長野県軽井沢町の軽井沢展望台に立ち、それを見る方が筑波山の男体山山頂では如何でしょうか。その距離約 130 キロ。小浅間山頂ならもう少し距離が延びます。これがアマチュアの光通信なのですが。



(遠山)

連載 ゆにーく 標識&標石 丸宮標石

丸宮と言っても判り難いでしょうが、旧宮内省御料局の境界用の標石を我々マニアが勝手に表現している標石です。その標石には、印の上に点、中に呂の漢字が刻印されている関係で丸宮(マルミヤ)と表現しています。宮という漢字のウカンムリを一周させて記号化した物。高尾山周辺、相模湖周辺、北八ヶ岳周辺、中禅寺湖周辺、塩原温泉周辺、唐沢山周辺(佐野市)で注意していると確認できると思います。裏面には標石番号が「界町一三五」、こんな感じで刻印されています。この標石と遭遇した時、あなたの歩いているところは御料地かもしれませんので御注意下さい。昔は木の枝を一本折っても始末書だったそうです。

行ってきました

丹沢大山 地形図の調査と読図研修

平野 彰

2月14日(土)丹沢大山(1252m)へ行って来ました。

前日は春一番が吹き、当日は雨の予定で天候が心配されたが、雨雲は早朝に通り過ぎたようだ。午前8時過ぎ鶴田泰子幹事を含む7名が小田急秦野駅に集合。8時20分発のバスに乗り込んだ。蓑毛橋下車、天気は青空が出るほど回復している。無線の周波数を合わせ、GPSの設定など出発の準備後、南稜班7北野、今井、片野、高橋 ヤビツ峠班 鶴田、川口、平野の2班に分け、蓑毛橋を8時50分に出発した。ほぼ直線の車道を北上途中南稜班とわかれる。9時20分沢に架かる板橋を渡り100メートルほど南進する。杉の植林地を沢沿いに北西に約300メートル登り、一時東南へ向かうもルートは北西のヤビツ峠まで1/25地形図の破線通りである。途中南稜班との交信は明瞭で順調に高度を稼いでいる模様。

ヤビツ峠には10時50分到着。初夏のような日差しである。そのトイレは破損がひどく修理中であった。休憩中ゲートルに鉄兜を背にした、旧陸軍の服装をした二人組みがバス停の方へ下りて行った。11時ヤビツ峠出発。南稜班との交信では、その後の足の不調は思いもよらず、約1時間で頂上到着予定と連絡したのだが。

半年振りの山は、同行の二人から塗り薬やビタミン剤までいただきながらの歩行で、大山頂上到着は大幅に遅れてしまった。阿夫利神社前の三等三角点を確認、大きな破損はないものの周りの保護石は無く無造作に埋められた感じだ。GPSの値は北緯35度26分26.82秒 東経139度13分52.51秒であった。南稜班と合流して雷の峰の主稜線を下る。

角材で補強された道が延々と続く急な下りであった。見晴台手前より二重滝を経て阿夫利神社下社へ到着したのは16時前であった。時間が遅れているので、全員16時発の大山ケーブルカーに乗車、16時07分追分着、両側の土産物店の間をひたすら下ると、伊勢原行きのバスが我々の乗車を待っていてくれた。伊勢原駅前では感じの良い店でささやかながら楽しい(私には足手まといになった反省をこめての)打ち上げとなった。

(平野 彰記)

行きましょう

(地形図調査のテスト：関東百名山第3回)

2009年3月8日(日)高尾山・城山

集合：JR中央線・高尾駅北口改札を出たところ 9:00

国土地理院の地図に記載されていないコースを含めてGPSで記録しながら歩きます。日影沢林道から2班に分けて異なるコースを高尾山山頂へ。山頂で集合の後、大垂水峠へ下り、城山へ登り返します。城山からも地図に記載されていないコースを下り日影バス停へ向かいます。歩行時間は4時間弱です。たまにはポピュラーすぎるようなコースもいかがでしょうか。

地形図：与瀬・八王子(1/25,000)

参加の方は担当の今井へ3月4日のAGC定例会までにメールまたは電話で連絡願います。(E-mail: imahi@vm01.vaio.ne.jp TEL.: 080-5545-3991) 以上

図書・資料の紹介

『展望の山50選・関東編』(藤本一美著)

すでに展望分野で著名な藤本一美氏による新版。絵図で楽しむ山岳パノラマの世界ですが、一つの山をじっくり時間を

掛けて調査するのではないため発行までのプレッシャーは大変なもの。昔と違いスモッグと気温との戦いは、見える筈の山を隠し、また見えることを知らずに紹介してしまう恐れがあるため、この50座を一定の時間内に調査発表するには運との戦いになってしまうのです。それだけに一人でこれだけの内容を紹介するには、各山域の地誌と展望に関する情報を事前に持ち合わせていないと、とても無理な世界です。それが図と文章内にも現れ見応えある内容となっています。あの山から見えるあの山は何山だろうという疑問をお持ちの方、ちょっと本屋でこの本を開くと、この世界の魅力に引き寄せられてしまうのではないのでしょうか。

東京新聞出版局発行。1600円 (遠山)

例会の議事録

2月定例会記録

2009年2月4日(水) 19:00~20:00 於JAC 集会室B

出席者13名(小疇(来客)、北野、平野、近藤、遠山、高橋、森合、大西、寺田(正)、寺田(美)、川口、長谷川、今井(順不同))

内容：1. 地理の専門家である小疇尚氏(元明治大学教授)出席による紹介。 2. 1月10日実施の伊豆ヶ岳を中心とする地形図調査のテストを兼ねた読図研修結果報告。現在当会会員所有レベルのGPSは谷間等で十分に位置を確定できない。特に冬季昼間は捕捉できる衛星の数が少ないことも影響していると思われる。(遠山) 今後の対応は、当面GPS測定山行を行って、データを蓄積することにしたい。(北野) 3. 2月14日(土)に予定のGPS測定大山山行(神奈川県)は予定通り行う。詳細は近日メール連絡する。(北野) 4. 3月の定例山行は3月8日(日曜)とし、引き続きGPS測定をかねて高尾山周辺を予定する。

終了後は「鯨の家」にて懇親会(13名)。

以上 (記録:今井)

お知らせ

おわびと訂正

前号(AGCレポートvol-20)にて報告した、会計報告に間違いがありました。謹んでお詫びいたします。

収入の部・会費(2008年28名分)(誤)5,500-(正)55,000-(編集者の転記ミスです。会計担当からの報告は間違いありませんでした)

次回の例会

日時 **2009年3月4日(水)** 18:30から 於:山岳会 ルーム
テーマ:地形図調査山行報告ほか

編集後記

konさんが忙しくて編集がストップしたとのメール。と言ってもどうしたらよいのか判らない。翌日電車の中で考えている内にWordで作成していたんだと判り、ちょっとkinさんが追加してみました。これでよかったのでしょうか。

AGCレポート vol-21 2009年2月25日発行
発行：日本山岳会・山岳地理クラブ(代表・北野忠彦)
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441
編集担当：近藤 E-mail: hikarikon@nifty.com